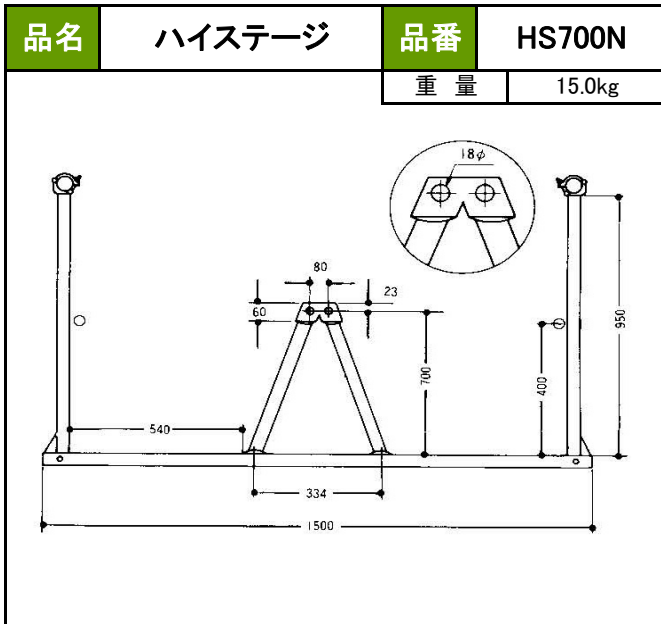


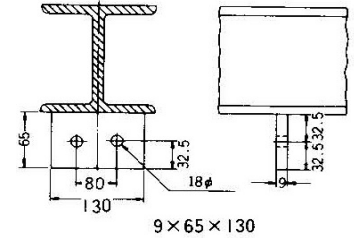
# ハイステージ



## ■取付けベース

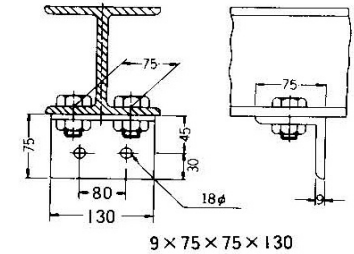
### FB型 溶接方式

鉄骨に溶接が可能な場合一担し、鉄骨を囲む鉄骨のかぶりが必要で、65%以下の場合には不適当です。



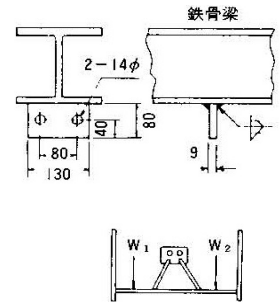
### A型 ボルト締め方式

鉄骨に溶接が不許可の場合一公団関係に於いては鉄骨架の強度が落ちるので吊足場を取り外した後、孔を埋め戻すことを指摘する現場があります。



## ■吊足場使用上の注意

- 吊足場を仮設するための取付プレートは右図のものとし、取付プレートは必ず両側溶接として下さい。
- 取付け用のボルトはM12×40ℓを使用しますが、基準によりJIS B1186規格（摩擦接合用高力六角ボルト）のF8T以上のものでボルト・ナット・平座金のセットで締め付けます。またボルトは取付部に必ず2本ずつを十分に締め付けて下さい。
- 吊足場の許容荷重は片側1.96KN以下とし、なるべく左右平均に載荷して下さい。
- 作業者の保護として上部手摺は48.6φの鋼管を取付け、中段の環にはロープを通して下さい。
- 強度の低いトラス梁等では、大きな片荷になると、梁を横曲げする場合がありますので、片荷にならぬように注意が必要です。
- 吊足場は3～4階分を架構し、上階に盛替えするのが経済的です。但し工期が短い場合には、全階に架けると能率的であり、工期短縮に役立ちます。



W<sub>1</sub> = W<sub>2</sub>  
1.96KN以下

## ■吊足場取付図

